

水土里の体験～稲作体験を通しての地域交流～

今年度は羽後町立田代小学校の全校生徒を対象に“田んぼの学校2014”を実施しました。この活動は休耕田を活用し稲作体験を通して、農業及び食の大切さと水土里ネットの役割を学ぶことを目的にしており、単独校では3年目の活動となります。

内容として今年度、8アールの水田に田植えの1作業を学年毎に分担し体験学習を行いました。

また、体験学習と別に独自に稲の成長を観察するなど学習会を開催しました。収穫したお米について食育の授業や地域の福祉活動に活用されており、地域住民の方々より大変好評を得ています。

尚、5年生にとって、社会科学習の一環であり興味を持って積極的に活動しています。

羽後町立西馬音内小学校の場合、JAこまち農協青年部が主体となり近代的な農法を含め農作業体験と食育の授業を行うなど、5年生の子供達を対象に行っており好評を得ています。

また、収穫感謝祭に保護者の方々も参加し、各農業団体の活動を理解して頂ける会でした。

「第10回食料・環境・ふるさとを考える女性の会」と題して、管内の女性の方を対象に当水土里ネットが管理している農業水利施設見学と、地元県会議員の講師による講演、また、当水土里ネットについて女性の視点での意見交換会を行いました。

この意見交換会では、今後の農業政策に対する不安を述べる中、農業用水及び農業水利施設の重要性と維持管理の必要性を分かりやすく説明を頂き、理解を深めたとの感想が多かったです。

また、今後この活動を継続して頂きたいとの声が多く大変有意義な会でした。



活動体制	
実施主体	水土里ネットうご（羽後町土地改良区）
後援・連携	町内2小学校、秋田県雄勝地域振興局農林部、羽後町農林課、JAこまち、秋田広域農業共済
実施期間	5月27日～11月21日
参加者	町内2小学校、組合員（非農家含む）、管内の女性など 総参加者354名
報道関連	秋田県のHP（美の国あきた）、JAこまち広報、秋田広域農業共済
活動実施年数	12年目（H14年～）
連絡先	〒012-1131 雄勝郡羽後町西馬音内字中野177番地 羽後町土地改良区 TEL. 0183-62-0741
その他	県奨励賞（H26）

【活動内容に対する自己評価】 水土里ネットうご（藤原 周悦）

○活動の目標及び達成率	目標	出前授業4小学校、食料・環境・ふるさとを考える女性の会の実施			
	達成率	60%			
○活動に対する評価	農作業の体験活動を通して、お米及び食について関心度が高くなった。また、当水土里ネットの役割を組合員以外の方にも活動を通して理解を得ている。				
判定基準	自己判定（達成度）		判定基準	自己判定（達成度）	
	判定	評価等		判定	評価等
1. 取組体制について			②運動の発展・拡大	C	継続する上で今後、地元関係者の人材育成が課題である。特に、“田んぼの学校”については、地域で行えるよう内容を改善したい。運動の発展性については、他組織との連携が必要であり、現段階では調整が図れない状況である。
①役職員・組合員の参加	B	広報での啓発及び会議等で報告しており、理解を頂いている。	③運動の計画性	A	主に女性の会で開催しており、好評を得ている。
②後継者育成の工夫	B	活動を通して、微力ながらも農業及び食育について人材を育成している。	4. 運動の成果		
2. 活動の意味性について			a. 組織活性化	B	事業計画に織り込まれているが、当水土里ネット全体での活動でないため組織の活性化には至っていない。
①基本理念の設定	B	当水土里ネットの事業計画として、織り込んでいる。	b. 地域農業	C	地域農業の振興に寄与しているが、先導的な組織としての活動は行っていない。
②地域の歴史等の伝承	B	農業水利施設の管理及び維持管理体制等について、当水土里ネットの特徴を活動の場で説明し理解を頂いている。	c. 地域コミュニティー	B	主に農地・水・保全管理の活動を通して、地域コミュニティーが図られている。
③運動の先駆性	B	基本理念と目標に沿って行っており、“田んぼの学校”も含め当初と変わらない方向性で行っている。	d. 地域資源管理	B	上記と同様である。
3. 運動の継続性・発展性			5. 今後の課題等について		
①運動の継続性	B	予算面及び活動も含め、身の丈にあった範囲で行っている。	・統合後、10年目であるが創造運動の活動等を通して、地域の方々に当水土里ネットに対して認知度が徐々に向上しました。反面、要望も増えていますが身の丈にあった活動内容とし地域主導型で行えるよう運動を展開したい。		

（自己判定）A：大いに達成している B：達成している C：少しは達成している D：達成していない E：その他